



JAMS NEWS

日本経営システム学会

<http://www.jams-web.jp/>

日本経営システム学会 第58回全国研究発表大会のご案内

会員の皆様には、時下益々ご清祥のことお慶び申し上げます。さて、日本経営システム学会第58回全国研究発表大会が平成29年5月27日(土)、28日(日)に東京経済大学国分寺キャンパスにて開催されます。東京経済大学は、東京都国分寺市にあり、最寄りの鉄道駅は、JR東日本中央線又は西武国分寺線・多摩湖線の国分寺駅です。多くの会員のご参加およびご発表を心よりお待ちしております。

記

開催日：平成29年5月27日(土)～28日(日)

開催場所：東京経済大学 国分寺キャンパス 〒185-8502 東京都国分寺市南町1-7-34

交通アクセス <http://www.tku.ac.jp/access/kokubunji/>

連絡先：実行委員長 若尾 良男(東京経済大学) wakao@tku.ac.jp

主催：日本経営システム学会

統一論題：「IoTと経営システム」

基調講演：「IoT、AI、ビッグデータに関する経済産業省の取組について」

経済産業省商務情報政策局情報経済課長 佐野 究一郎 氏

参加費：会員5,000円、学生会員3,000円、協賛学会員・同学生会員はそれぞれ会員・学生会員と同額、非会員6,000円、非会員学生4,000円、(当日支払は各1,000円高)

懇親会費：会員5,000円、学生会員3,000円、協賛学会員5,000円、非会員6,000円(当日支払各1,000円高)

昼食：大学生協食堂が27日土曜日は開いています。28日日曜日は閉店です。国分寺駅から大学までの徒歩(約12分)途上で3つのコンビニエンスストア(国分寺駅構内のNewDays、途中でミニストップとセブンイレブン)があります。途中に幾つかのレストランがあります。

懇親会場：6号館7階大会議室

宿泊：国分寺駅北口にビジネス千成ホテル、南口にホテルメッツ国分寺とビジネスホテルダイワがあります。その他にも、中央線沿線に多数のホテルがあります。

※近年、外国人観光客増加により国分寺市内のホテルの宿泊料が高騰し予約も難しくなっております。各自で早めの手配をお願いいたします。

発表申込：発表申し込みは、学会ホームページ <http://www.jams-web.jp/> の発表申込フォームから申し込みいただくか、ダウンロードした申込書に必要事項を記入の上、メール添付で学会事務局 E-Mail: keieisys@jams-web.jp へ、3月31日(金)までに送信してください。本JAMS NEWSの発表申込書を学会事務局宛 Fax.03-3371-5185 にご送付いただいても構いません。

原稿締切：pdfおよびword入稿または郵送にて、平成29年4月21日(金)まで(厳守)、学会事務局宛又は第58回大会発表原稿入稿フォームから御投稿ください。

参加申込：次号JAMS NEWSに同封の振込用紙、またはHPの振込み方法を参考にして上記金額をお振込み下さい。期限後に振込まれた方は、当日用紙の控えまたはコピーをお持ち下さい。

■会場設備について

全ての発表会場にPC(Windows, MS-Office)とプロジェクタが設置されていますので、原則として会場の設備をご利用下さい。データはUSBメモリーに入れてお持ち下さい。特殊なソフトをご使用の場合は、ノートPCをお持ち込みも可能ですが、コネクタ接続など準備に時間がかかりますので、ご注意ください。

■大会会場へのアクセス

国分寺駅からのアクセス：

- ・JR 中央線「新宿駅」から「特別快速」電車で、「国分寺駅」まで約 21 分、「快速」電車で 31 分です。
- ・JR 中央線、西武国分寺線・多摩湖線「国分寺駅」南口より徒歩 12 分です。

※タクシー利用の場合は、東北門へお回りください。



バスでお越しの方：

- ・京王線「府中」駅下車、京王バス「国分寺駅南口」行き終点より徒歩 12 分です。
- ・JR 中央線「武蔵小金井」駅下車北口 5 番のりば、京王バス「小平団地」行きに乗り、JR 車庫前下車徒歩 3 分です。
- ・JR 中央線「武蔵小金井」駅下車南口 4 番のりば、京王バス「西之久保循環」に乗り、経大前下車徒歩 1 分です。

※本数は 1 時間あたり平日・土日とも 2 本です。

交通アクセス <http://www.tku.ac.jp/access/kokubunji/>

■学生研究発表優秀賞について

当学会では、学生セッションの研究発表を審査して優秀な発表には「学生研究発表優秀賞」を授与しています。学生であれば、正会員・学生会員を問わず、学生セッションの研究発表は審査の対象となります。ただし、下記の点にご留意下さい（もし、ご不明な点がありましたら、学会事務局にお問い合わせ下さい）。

- ・学生セッションの発表は、正会員（一般的には指導教員）との連名とし、ファースト・オーサーは学生とします。
- ・学生セッションでの単独発表は、正会員の学生に限ります。
- ・学生研究発表優秀賞の受賞対象者は、単独発表、連名発表のファースト・オーサーの学生のみとします。
- ・学生セッションの発表原稿は、会員の種別を問わず 2 頁とします。

■学会発表に関する原則について

当学会では、研究発表大会をスムーズに運営するために、口頭発表に関して以下に示すような原則（学会ホームページ <http://www.jams-web.jp/information/prerule.html>）に従って運営しています。口頭発表を申し込まれる前にご確認ください。なお、この原則は、大会委員会および大会実行委員会により運用されます。不明な点がございましたら、学会事務局へお問い合わせください。

1. セッションの種類と口頭発表の資格：一般セッションでは、正会員だけが口頭発表できます。学生セッションは、学生であれば、正会員・学生会員ともに口頭発表できます。ただし、学生セッションの単独発表は、正会員の学生に限ります。また、いずれのセッションにおいても、連名発表の場合、口頭発表者をファースト・オーサーとしてください。
2. 学生会員の口頭発表条件：学生会員は、学生セッションで正会員との連名で口頭発表する事ができます。
3. 連名者の資格：研究発表の連名者は、全員会員でなくてはなりません。また、大会当日は、連名者も大会に参加することを原則とします。
4. 発表件数の制約：同一のファースト・オーサーによる研究発表は、3 件目からは 1 件あたり 5,000 円を徴収します。
5. 口頭発表者の参加費支払い：口頭発表者は、発表原稿の提出時に参加費を支払うものとします。
6. 参加費の返還について：既納の参加費は、理由のいかんを問わず返還しませんのでご注意ください。
7. 発表のキャンセルと欠席：大会直前に発表キャンセルや無断欠席をされた場合には、次回以降の発表をお断りすることがありますので、十分ご注意ください。また、連名発表でファースト・オーサーが病気や事故等やむを得ない理由で口頭発表できない場合は、大会実行委員長もしくは司会者に相談し承諾が得られれば、連名者が代わりに口頭発表できるものとします。

第 57 回全国研究発表大会の報告

大会実行委員長 堀江 育也

日本経営システム学会の第 57 回全国研究発表大会が、2016 年 10 月 15 日（土）、16 日（日）、統一論題「デジタルイノベーションと経営システム」のもとに、札幌大学（北海道札幌市）で開催されました。基調講演は、「ICT スキーム起業の実際 ～今までとこれから～」と題して、ウェルネット株式会社代表取締役社長の宮澤一洋氏にご講演を頂きました。北海道大会にもかかわらず、大勢の方にご参加いただきました。

統一論題で 2 件、研究部会で 9 件（うち学生発表 1 件）、自由論題で 77 件（うち学生発表 38 件）の研究発表がなされました。また、基調講演者、特別講演者、学生ボランティア（19 名）を除き、大会の実参加者は 148 名、懇親会参加者は 68 名でした。今回の大会開催にご尽力いただいた、多くの会員の皆様、理事・評議員の皆様、発表者・司会者の皆様、学会事務局に、そして施設利用に配慮を頂いた札幌大学、懇親会会場を提供いただいた札幌大学生協に、この場を借りて深く感謝申し上げます。当日は、会場案内の不備、機材のトラブルなどご迷惑をお掛けいたしましたがおかげさまで無事終了できました。

JAMS 学生研究発表優秀賞について

表彰委員長 川中 孝章

第 57 回全国研究発表大会（於：札幌大学）終了後、表彰委員会を開催し、慎重に表彰候補者を選考致しました。その後、理事会の審議を経て下記 6 名が学生研究発表優秀賞に決定しましたので報告致します。

1. 「路線バスにおける利用者予測モデルを用いた潜在需要の刺激要因に関する考察」
中振 昇（工学院大学）
2. 「職人技の継承による価値創造と生産性向上の仕組みの構築
—エスノグラフィと ICT を活用するサービス経営人材の育成—」
山口 優介（芝浦工業大学）
3. 「サプライチェーン途絶リスク管理における調達先多様化の影響の分析」
増田 拓也（東海大学）
4. 「観光資源の多様性喪失と進化的自殺に関する研究」
新海 しおり（愛知淑徳大学）
5. 「悪い口コミを行う消費者の動機に注目した適切な返信の共感性について」
木暮 美菜（法政大学）
6. 「SNS コネクションマップを用いた SNS ページのネットワーク分析」
江原 泰介（青山学院大学）

新年のご挨拶

日本経営システム学会 第 18 期会長 小田 哲久

会員の皆様、新年おめでとうございます。昨年は、米国大統領選でトランプ氏が次期大統領に選出され、世界環境がこれまでとは異なる形で推移するのではないかと不安の中、新年を迎えることになりました。

本学会の昨年は、春の横浜大会の盛況に続き、長年の懸案でありました北海道大会も成功裏に終えることができました。また、役員選挙が始まり、このニュースレターがお手元に届くころには、新常任理事の顔ぶれが決まっていることかと思います。

暮れには、名簿作成のための個人情報の調査が行われました。今回、その機会を利用して無記名アンケート調査を実施し、研究発表大会へのご意見をお伺いしました。1 月中旬時点で、皆様からのご回答が 185 部届き、統計的な分析の準備を進めております。投函がまだの方は、ぜひお願いいたします。

とりあえず、生の回答を読んだ段階での印象ですが、大会での希望は「工場見学」や、ネットの活用が多いなど、想定された結果の一方、「韓国・台湾など、近隣国での開催」、「自由討論」、「研究相談会」が非常に多いなど、予想外の回答がいくつかあり、目から鱗の落ちる想いです。調査用紙の各選択肢は、私

自身が、工学（電子、情報系）、医学、心理学、英語教育学、など別分野の学会で体験してきた項目が大半で、本学会でただちに実現可能なものばかりではありませんが、結果は、今後の学会運営に大変に参考になると思います。会員の皆様への率直なご意見をいただきましたことを深く感謝します。調査結果は、まとも次第、公表して参ります。デジタルデータも、自由に解析していただけるように公開する計画しております。

本年度の計画についてですが、学会 Web ページや JAMS ニュースでお知らせしておりますように、全国研究発表大会について、春は東京経済大学、秋は愛知の西城大学での開催を予定しております。また、本年はハワイでの国際大会の開催予定年ですが、会場の都合がつかないことから、方針を変えて国内での開催とし、秋の研究発表大会と同時に同会場で開催する構想を、国際大会実行委員会と調整しております。理事会にて承認されましたら、具体的にアナウンスして参ります。国内大会と国際会議との同時開催は、過去に 2 回実施しております。近いところでは、第 55 回の小倉大会がそうで、学会の国際化に大きく貢献しました。しかしながら、2 回とも国際会議の側の規模が大きく、また、JAMS が直接運営する組織ではありませんでした。一方、今構想しているのは、当学会自前の組織によるものです。ノウハウの蓄積もあり、経験豊かな人材も揃っていることから、スムーズな運営が期待できます。国際大会というと大げさな感じですが、大規模な大会は想定していません。国内大会での英語セッションとの違いは、国際大会という名称だけでなく、著者が会員に限定されず、査読つきであること、多少参加費が高い、という点に加え、ツアーが用意されている事くらいでしょうか。今回、トヨタ自工、新日鉄、ミツカン、INAX などからの工場見学を構想しています。国内での国際大会は、出張費用が節約でき、大学院生など、査読付きの研究発表業績が必要な会員には特に有意義でしょう。

論文集につきましては、近年、大会での発表件数が増え、それに比例して学会論文集への投稿も増えてきました。その結果、徐々に和文誌（JAMS 誌）の厚みが増えています。いずれは、英文紙（IJAMS）と同様の電子化が検討課題となってくるでしょう。

会員総数は、学会創設以来、緩やかに増加を続けて 2012 年度には 700 名を超えましたが、その後微減し、現在は 650 名前後に落ち着いております。入退会の記録を見ますと、毎年数十名の入会と退会があります。会員数は、入会速度と退会速度の差の積分になりますので、僅かの差が会員数に大きく効いてきます。会員の皆様に知人への勧誘をいただいて、新入会者が増えることと、サービスにご満足いただいて長く会員を続けていただければ、比較的短期間に 1,000 人規模に達する可能性があると思います。そのためにも、学会は会員の皆様のニーズに答え、満足を感じていただく必要があると感じております。

当学会の研究領域は極めて幅広く、文系と理系の両方の研究者が、異なる方法論を共に価値ありとしてお互いに学び合う場として機能して参りました。今後、自由討論、チュートリアルなどを通じた相互交流が本学会の特徴を鮮明にし、それが会員増に繋がることを期待したいと思います。

学会は、会員の皆様に満足いただけるよう、日々の運営に気を配るとともに、新規の工夫もして参りたいと存じます。皆様には、引き続き当学会の発展にご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成 28 年度第 2 回理事会のまとめ

- I. 開催日時：2016 年 9 月 3 日（土） 15:00～18:00
- II. 開催場所：関西学院大学 東京丸の内キャンパス ランバス・ホール
- III. 出席者：Ⅲ. 出席者：小田、椎原、山下、石田、今井、金子、川中、今野、佐々木、鄭、毛利、柳田、板倉、佐藤、野々山、深澤、松岡
（監事）石井、松丸 （オブザーバー）浅井（Skype）、永松、堀江（Skype）（敬称略）
理事会の審議に先立って、会長から遠隔会議の試行についての提案があり、浅井先生と堀江先生の Skype を使ったオブザーバー参加が了承された。
- IV. 審議事項
 1. 平成 28 年度第 1 回理事会議事録の確認（椎原）：平成 28 年度第 1 回理事会議事録の内容が報告され、原案の通り承認された。
 2. 会員の入退会について（椎原）：入退会の状況について説明がなされ、承認された。ただし、学生会員入会希望者 2 名の入会申込書が未着なので、事務局より督促することになった。申込書が届かない場合には、第 57 回全国研究発表大会の発表を取り消すことになった。また、休会の申請があったので、理事会の決議によりこれを承認することになった。休会期間中は、正会員としてのサービスを提供しないことが確認された。以上の結果、平成 28 年 9 月 1 日現在、正会員 514 名、学生会員 133 名となった。
 3. 役員選出委員会の設置および構成について（松岡）：松岡先生(委員長)、松田先生、永松先生、柳田先生、

田畑先生が、役員選出委員に就任されることが了承された。選挙実施に向けたスケジュール、役員選挙告示、被選出常任理事候補者推薦書、被選出常任理事選挙投票、被選出常任理事信任投票、選挙関係規程について説明がなされた。今回の役員改選では、従来通り被選出常任理事の上限となる 15 名を募集することが決まり、理事会は十分な立候補者数が集まるように努力することになった。そして推薦手続きの簡素化のために、被選出常任理事候補者推薦書から推薦者の印を廃止することが決まった。さらに、役員改選を会員に広く知らせるため、JAMS NEWS のみならず、HP にも公開することが了承された。なお、成川先生、村山(誠)先生、蔵先生が立会人に予定されていることも報告され了承された。審議が必要になった場合には、電子メールによる審議を使用することが承認された。

4. 第 57 回全国研究発表大会の準備状況について (佐々木) : 準備状況が報告された。発表申込みは 87 件(一般 51 件、学生 36 件)であった。なお、理事会後に審議が必要になった場合には、電子メールによる審議を使用することが承認された。
5. 第 58 回・59 回全国研究発表大会の準備状況について (佐々木) : 第 58 回および第 59 回全国研究発表大会の計画について説明があった。第 58 回大会は、2017 年 5 月 27 日・28 日に東京経済大学国分寺キャンパスで開催されることが了承された。また、第 59 回大会は、2017 年 10 月 28 日・29 日に星城大学で開催されることが了承された。
6. 表彰に関する規定類の制定・見直しについて (規程、細則、内規) (川中) : 表彰に関する規定類の改正案が説明された。規程・細則・内規の体系にするか、細則・内規の体系にするか等の議論が行われ、継続審議事項になった。
7. 学会賞・論文奨励賞の選考手続きについて (川中) : 学会賞・論文奨励賞選考ワーキンググループ運用内規と学生研究発表優秀賞表彰内規が提案され、文面の微修正を行った後、平成 28 年 9 月 3 日より施行することが承認された。
8. 遠隔会議の運用について (小田) : 理事会での審議に Skype 等を使用することが了承された。規定が制定されるまでの運用については、会長に一任されることになった。

V. 報告事項

1. 平成 28 年度通常総会の議事録について (椎原) : 平成 28 年度通常総会議事録の報告がなされた。
2. 第 56 回全国研究発表大会の報告 (永松) : 第 56 回全国研究発表大会の報告がなされた。
3. 第 56 回全国研究発表大会の学生研究発表優秀賞について (川中) : 第 56 回全国研究発表大会における学生発表優秀賞の審議結果が報告された。
4. 平成 28 年度他学会シンポジウム等協賛関連 (椎原) : 経営情報学会の 2016 年秋季全国研究発表大会と、モバイル学会のシンポジウム「モバイル 17」に協賛することが報告された。
5. 横幹連合について (小田) : 横幹連合の会長からの面談の要請があり、小田先生と松丸先生が面談に応じられた。また、Society5.0WG の委員の推薦依頼があり、松丸先生を推薦したことが報告された。
6. 横幹連合カンファレンスについて (川中) : 横幹連合カンファレンスが 11 月 20 日に慶應義塾大学で開催されること、当学会によるオーガナイズドセッションでは、川中先生、山下先生、金子先生、鄭先生、村山(誠)先生、権先生が発表されることが報告された。
7. 経営学関連学会協議会の国際学会誌の査読者について (小田) : 経営学関連学会協議会から国際学会誌の査読者 2 名の推薦依頼があり、会長が推薦することになった。

中部支部共催 第 42 回東海ファジィ研究会 (ヒマ研 2017) 開催案内

主 催 : 日本知能情報ファジィ学会東海支部

共 催 : 日本経営システム学会中部支部

開催期間 : 2017 年 2 月 19 日 (日) ~ 2 月 20 日 (月)

会 場 : 日間賀島公民館 (南知多町役場 日間賀島サービスセンター) TEL : 0569-68-2001
愛知県知多郡南知多町日間賀島字永峰 18 (日間賀島中学校・小学校の近くです)

参加費 : 一般 4,000 円学生・名誉会員・特別会員 2,000 円

宿泊費 (1 泊 2 食) : 実費 (約 13,000 円) 個室は 5,000 円追加,

招待講演 : 遺伝的ファジィシステムの基礎と応用 能島裕介 先生 (大阪府立大学大学院)

申込み切 : 2017 年 1 月 20 日 (金)

申込方法 : HP にて申込み下さい。 <https://sites.google.com/site/tokaifuzzy/conferences/himaken2017>

経営システム学会側幹事 : 小田哲久 oda@aitech.ac.jp

日本経営システム学会 研究発表申込書

平成 29 年度 第 58 回全国研究発表大会

発表種類 (研究、部会) (発表種類のいずれかを○でお囲み下さい)

発表セッション区分 (一般セッション、学生セッション) (区分のいずれかを○でお囲み下さい)

口頭発表者会員種別 (正会員、学生会員) (会員種別のいずれかを○でお囲み下さい)

会員連絡先

会 員 名			
所 属			
住所 (勤務先・自宅)	〒		
連 絡 先	TEL	FAX	E-mail

論題および発表者

論 題		
ふりがな 発表者氏名 (所属)	1. ()	2. ()
当日の口頭発表者には*を付す	3. ()	4. ()
研 究 部 会 名 (研究部会発表の場合)		代表者名: ()

発表要旨 (200 字以内・ワープロプリント貼付可)

キーワード (必ず記入)					
-----------------	--	--	--	--	--

- 注: 1) 大会プログラムは、この申込書のキーワードおよび発表要旨により編成いたします。
 2) プログラム、論文集目次の論題および口頭発表者・連絡者は申込書の記載どおりに掲載いたしますので、明確に楷書にてご記入下さい。(ワープロプリント貼付可)
 3) 論文集原稿締切日までに間に合わない場合は、プログラムに掲載され、発表時間も確保されておりますが発表取り消しとしますので、ご了承ください



日本経営システム学会

住所 〒169-0073 東京都新宿区百人町 1-20-3 バラードハイム 703
 TEL03-3371-5324・FAX03-3371-5185
 E-Mail: keieisys@jams-web.jp